First Hit

Previous Doc

Next Doc

Go to Doc#

केन्द्रामास्त्राहरू (श्रिमानस्त्राहरू) विस्तृतः

L1: Entry 1 of 4

File: JPAB

May 17, 1996

PUB-NO: JP408122836A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 08122836 A

TITLE: PIGMENT FOR NONLINEAR OPTICAL MATERIAL AND NONLINEAR OPTICAL MATERIAL

CONTAINING THE PIGMENT

PUBN-DATE: May 17, 1996

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

ARAMAKI, SHINJI KUBO, YOSHIHARU

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

MITSUBISHI CHEM CORP

APPL-NO: JP06253795

APPL-DATE: October 19, 1994

INT-CL (IPC): $\underline{G02} \pm \underline{1/35}$; $\underline{C07} \underline{D} \underline{241/46}$; $\underline{C07} \underline{D} \underline{279/36}$; $\underline{C09} \underline{B} \underline{57/00}$

ABSTRACT:

PURPOSE: To provide a nonlinear optical material allowing the manufacture of an element having a high performance by containing a pigment having the specified structure in a high polymer.

CONSTITUTION: A nonlinear optical material pigment has a compound expressed by the formula where X stands for S or NR4. Also, R1 and R2 respectively stand for an alkyl group acceptable in a substituted form. R1 and R2 may be bonded to each other to form a ring. Furthermore, R3 stands for a hydrogen atom, an alkyl group, an alkoxy group or an acyl amino group. All the groups may be substituted and R4 stands for a hydrogen atom or an alkyl group. Also, Q stands for (NC)2C=, NC(H2NCO)C=, or NC-N=. In this case, when Q is NC(H2NCO)C=, the formula covers the case where an NC-group and an H2NCO- group are at a cis-level or a trans-level for a benzene ring having Q bonded and a condensed benzene ring.

COPYRIGHT: (C) 1996, JPO

Previous Doc Next Doc Go to Doc#

BEST AVAILABLE COPY

First Hit

Previous Doc

Next Doc

Go to Doc#



L1: Entry 3 of 4

File: DWPI

May 17, 1996

DERWENT-ACC-NO: 1996-291197

DERWENT-WEEK: 199643

COPYRIGHT 2004 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Pigment for nonlinear optical material - comprises naphthalene deriv. giving

material good functionality and versatility

PATENT-ASSIGNEE:

ASSIGNEE CODE MITSUBISHI CHEM CORP MITU

PRIORITY-DATA: 1994JP-0253795 (October 19, 1994)



SEEDEFALL!



PATENT-FAMILY:

PUB-NO

PUB-DATE

LANGUAGE

PAGES

MAIN-IPC

JP 08122836 A

May 17, 1996

007

G02F001/35

APPLICATION-DATA:

PUB-NO

APPL-DATE

APPL-NO

DESCRIPTOR

JP 08122836A

October 19, 1994

1994JP-0253795

INT-CL (IPC): C07 D 241/46; C07 D 279/36; C09 B 57/00; G02 F 1/35

ABSTRACTED-PUB-NO: JP 08122836A

BASIC-ABSTRACT:

A pigment for a nonlinear optical material is represented by the following structural formula (1): X = S or NR4; R1 and R2 = alkyl gp. opt. having a substitute, and R1 and R2 may be bonded to form a ring; R3 = H, alkyl, alkoxy or acylamino gp, opt. having a substitute; R4 = H or alkyl gp; Q: (NC2)C=, NC(H2NCO) C=, or NC-N=. The nonlinear optical material contg. the above-mentioned pigment and having a structure of no inversion symmetry, is produced by adding the above-mentioned pigment to a polymer, followed by heating them and applying electric field to them so that the pigment is oriented.

USE - The pigment is useful for providing a nonlinear optical material having very high nonlinear susceptability.

ADVANTAGE - A nonlinear optical material having a good functionalities and versatilities can be easily produced by the use of the pigment.

CHOSEN-DRAWING: Dwg.0/2

TITLE-TERMS: PIGMENT NONLINEAR OPTICAL MATERIAL COMPRISE NAPHTHALENE DERIVATIVE MATERIAL FUNCTION VERSATILE

DERWENT-CLASS: A14 A89 E23 L03 P81 V07

CPI-CODES: A08-E04; A12-L03; E06-D18; E06-F05; E25-E01; L03-D01D;

EPI-CODES: V07-K10B2;

CHEMICAL-CODES:

Chemical Indexing M3 *01*

Fragmentation Code D011 D021 D022 D023 E330 E870 F011 F014 F021 F423 F433 F553 F653 H1 H100 H101 H102 H103 H141 H181 H182 H183 H201 H202 H541 H581 H582 H721 J011 J012 J013 J014 J171 J172 J341 J371 J581 J582 K0 L110 L145 L199 L355 L640 L699 L9 L952 M210 M211 M212 M213 M214 M215 M216 M220 M221 M222 M223 M224 M225 M226 M231 M232 M233 M240 M262 M272 M273 M280 M281 M282 M283 M311 M312 M313 M314 M315 M316 M320 M321 M322 M323 M331 M332 M333 M340 M342 M344 M349 M372 M381 M383 M391 M392 M412 M511 M520 M521 M530 M540 M710 M781 M903 M904 Q130 Q454 R043 Ring Index

04945 05007

Markush Compounds

199630-B6301-N 199630-B6301-U

Chemical Indexing M4 *02*

Fragmentation Code

D011 D021 D022 D023 E330 E870 F011 F014 F021 F423 F433 F553 F653 H1 H100 H101 H102 H103 H141 H181 H182 H183 H201 H202 H541 H581 H582 H721 J011 J012 J013 J014 J171 J172 J341 J371 J581 J582 K0 L952 M210 M211 L110 L145 L199 L355 L640 L699 L9 M212 M213 M214 M215 M216 M220 M221 M222 M223 M224 M225 M226 M231 M232 M233 M240 M262 M272 M273 M280 M281 M282 M283 M311 M312 M313 M314 M315 M316 M320 M321 M322 M323 M331 M332 M333 M340 M342 M344 M349 M372 M381 M383 M391 M392 M412 M511 M520 M521 M530 M540 M710 M781 M903 M904 Q130 Q454 R043 W001 W003 W030 W334 Ring Index 04945 05007 Markush Compounds

ENHANCED-POLYMER-INDEXING:

199630-B6301-N 199630-B6301-U

Polymer Index [1.1] 018; R00479 G0384 G0339 G0260 G0022 D01 D11 D10 D12 D26 D51 D53 D58 D63 D85 F41 F89; H0000; S9999 S1627 S1605; P0088; P0113 Polymer Index [1.2] 018; ND00; N9999 N6177*R; N9999 N6439; N9999 N7294; N9999 N5890 N5889; N9999 N7329 N7078 N7034 N7023; N9999 N7147 N7034 N7023; N9999 N6780*R N6655; N9999 N6860 N6655; N9999 N7103*R N7034 N7023; N9999 N7090 N7034 N7023; Q9999 Q7409 Q7330 ; B9999 B4240*R ; B9999 B5243*R B4740 ; B9999 B5425 B5414 B5403 B5276 ; K9427 Polymer Index [1.3] 018; D01 D14 D13 D31 D75 D50 D85 F23; A999 A475 Polymer Index [1.4] 018; D01 D03 D08 D11 D10 D12 D23 D22 D25 D34 D35 D79 D41 D43 D45 D53 D51 D54 D56 D59 D94 F00 F08 F07 F09 F12 F17 F15 F34 F93 F70 F94 N* 5A; A999 A102 A077

SECONDARY-ACC-NO:

CPI Secondary Accession Numbers: C1996-093068 Non-CPI Secondary Accession Numbers: N1996-244503

Previous Doc Next Doc Go to Doc#

(19)日本国特許庁(J P)

(12) 公開特許公報(A)

庁内整理番号

(11)特許出屬公開番号

特開平8-122836

(43)公開日 平成8年(1996)5月17日

(51) Int.CL*

識別記号

PΙ

技術表示箇所

G02F 1/35

504

C 0 7 D 241/46

279/36

C09B 57/00

V

審査請求 未請求 請求項の数3 OL (全 7 頁)

(21) 出顧番号

(22)出題日

特票平6-253795

平成6年(1994)10月19日

(71)出算人 000005968

三菱化学株式会社

東京都千代田区丸の内二丁目5番2号

(72)発明者 荒牧 晋司

神永川県横浜市緑区鳴志田町1000番地 三

姜化学株式会社総合研究所内

(72)発明者 久保 由治

埼玉県浦和市五興449-3-202

(74)代理人 弁理士 長谷川 鳴司

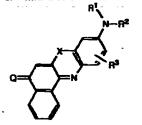
(54) [発明の名称] 非線形光学材料用色素及びそれを含有する非線形光学材料

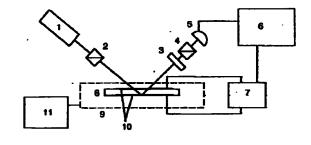
(57)【要約】

(修正有)

【目的】 大きな非線形感受率を有する材料を得るのに 利用できる分子超分極率8の大きな色素を提供し、非線 形感受率を大幅に高め、従来の素子に比較して、高い性 能を示す素子を作製できる非線形光学材料を提供する。

【構成】 下記構造式(1)で示される非線形光学材料 用色素化合物及びこの色素化合物を含有し、反転対称性 を有しない構造を付与した非線形光学材料。





(1)

【特許請求の範囲】

【請求項1】 下記構造式(1)で示される非線形光学 材料用色素化合物。

【化1】

$$Q = \bigcup_{i=1}^{N-R^2} N^2$$

(式中、XはSまたはNR⁴ を表す。また、R¹ および R² は、それぞれ置換されていてもよいアルキル基を表 し、R1 とR2 とが結合して環を形成してもよく、R3 は水素原子、アルキル基、アルコキシ基またはアシルア ミノ基を表し、これらは置換されていてもよく、R4 は 水素原子またはアルキル基を表す。また、Qは、(N C)2C=、NC(H2NCO)C=、又はNC-N=を表 す。

【請求項2】 請求項1に記載の色素化合物を含有し、 且つ反転対称性を有しない構造を付与した非線形光学材 料。

 $P = P_0 + \chi^{(1)} E + \chi^{(2)} EE + \chi^{(3)} EEE + \cdots$

このx(2) は2次の、x(3) は3次の非線形感受率と呼 ばれ、これらの関係する現象は、例えば、Y.R.Sh en著"Principles of Nonline ar Optics"に記述されている。

【0004】現在、非線形光学材料として実際に用いら れているのは、KDP (KH2PO4)、LiNbO a (ニオブ酸リチウム)、KTP (KTiOPO4)等 の酸化物単結晶や、GaAs等の半導体材料が主であ る。近年、π電子共投系の有機化合物が、この非線形光 学材料として注目を集めている。これは、その非線形感 受率が無機系材料と比較して非常に大きいことや、それ が電子分極に由来することから、全光デバイスに応用さ れた場合、ピコ秒以下の超高速の応答性が期待されるこ とによる。また、誘電率の小さいことや、ニオブ酸リチ ウム等と比較して光損傷に強いこと、高分子材料におい ては製造法が単結晶成長に比較して容易なこと、多様な※40

 $p = \mu + \alpha E + \beta E E + \gamma E E E + \cdots$

ここで α は $分子分極率、<math>\beta$ 、 γ はそれぞれ二次、三次の 分子超分極率と呼ばれており、分子集合体の非線形感受 率はこれらβ、γに由来する。二次の非線形光学材料と しては、分子内に電子供与性の基と電子吸引性の基を含 み、それらがπ電子共役系で連結されている分子内電荷 移動性のものが、二次の分子超分極率(β)が大きくな ることが示されており、これまでに知られている大きな x(2) を示す有機化合物は、メチルニトロアニリン (M NA)に代表されるように、ほとんどがこのタイプの分★50 【0008】この有機系非線形光学材料において、結晶

*【請求項3】 高分子中に請求項1に記載の色素化合物 を含有させ、加熱しながら電場を印加することにより該

色素化合物を配向させて得られる請求項2に記載の非線 形光学材料。

【発明の詳細な説明】

[0001]

【産業上の利用分野】本発明は、非線形光学材料用色素 及びそれを含有する非線形光学材料に係り、特に、大き な2次の非線形感受率を有する材料を提供するために好 10 適に使用される色素及びそれを含む非線形光学材料であ って、電気光学光変調素子や波長変換素子等に用いる光 の制御素子として有効な非線形光学材料に関する。

[0002]

【従来の技術】非線形光学材料は、光の波長変換、屈折 率の変化による光の変調、スイッチング等、光、特にレ ーザー光の変換や制御に広く利用されている。これは外 部より加えられる電磁場による物質の非線形な分極によ り引き起こされる現象として理解されている。ここで、 外部より加えられる電場 (光又は静電場) をE、それに 20 より誘起される物質の分極をPとして、PをEにより展 開すると、下記式(2)の如く表せる。

[0003]

【数1】

... (2)

※分子設計により種々の機能を付加できる可能性のあるこ とも、有機材料が非線形光学材料として期待されている 理由として挙げられる。このような有機化合物の特長を 利用すれば、半導体レーザー等の低パワーレーザー用の 第二高調波発生等の波長変換素子や、低電圧駆動で高速 30 応答性の電気光学変調素子を作製することが可能であ る。

【0005】非線形光学材料としての実際の有機材料と しては、種々の形態のものが検討されてきた。有機化合 物では、非線形感受率は分子の超分極率で議論される。 分子に作用する電場をEとし、これにより誘起される分 子の双種子モーメントをpとすると、下記式(3)で表 せる.

[0006]

【数2】

... (3)

★子である。

【0007】しかし、二次の非線形光学材料には、その 構造が巨視的に反転対称性を有しないという制限が存在 する。即ち、 $\chi^{(2)}$ が3階のテンソルであるために、 β が大きくても集合体が反転対称性を有する結晶構造をと ったり、アモルファスである場合には、x(2) はOにな る。このため、Bの大きな分子をいかにして極性構造に 配向させるかが、材料探索の大きな課題となっている。

構造を利用することは最もよく行なわれることであり、 粉末SHG法はこのような材料を簡便にスクリーニング する方法である。従来、分子が最適な配置をとった結晶 を得るために、光学活性な基の導入、基底状態の双極子 モーメントの小さい骨格、水素結合の利用等の分子設計 のアイデアは幾つか提案された。

【0009】しかしながら、最終的には実際に結晶を得てみなければ、効果は明らかではない。また、有機化合物の結晶は分子性結晶で、柔らかく加工性に乏しい。更に、非線形光素子として実用化する際に、導波路構造に 10加工することが望ましいことが多いが、これに必要な薄膜形成法、結晶方位の制御、部分的に屈折率を変化させる方法が非常に難しい。このようなことから、膨大な数の有機結晶について非線形光学材料としての可能性が調べられているにもかかわらず、素子にまで加工された例は少ないのが現状である。

【0010】もう一つの二次の有機系非線形光学材料と しては、高分子材料が挙げられる。これはアクリル系の 高分子にディスパースレッド1(N-エチルーN-ヒド ロキシルエチルー4ーアミノー4' ニトロアゾベンゼ ン) に代表される、Bの大きな分子をドープしたり、高 分子の側鎖に結合させたもので代表される。高分子材料 は、コーティングによる薄膜形成が容易で、光学的にも 優れた光導波路材料となることは知られているが、コー ティングしただけの膜は一般にアモルファスでx⁽²⁾ は 0である。χ(2) を示すようにするための方法として は、高分子の膜に電場を印加しながらガラス転移温度T g以上の温度に加熱して、βの大きなユニットを配向さ せた後、室温まで冷却して配向を固定するボーリングと 呼ばれる操作が最もよく利用されており、これにより、 ニオブ酸リチウム程度の電気光学効果を示す材料が得ら れている。しかしながら、この操作における最も大きな 欠点は、その配向が熱的に緩和してしまい、x(2) が次 第に減衰することである.

【0011】そのほかに、8の大きなユニットを配向させた構造を得る方法としては、ラングミュア・ブロジェット膜等の配向性の膜を利用することも試みられている。いずれの非線形光学材料においても、大きなx(2)を有する材料は、素子を高効率にするために多くの有利な点を有する。例えば、電気光学効果を利用した光スイの、手業子においては、大きな電気光学効果を有する材料を用いれば、低電圧駆動のものが得られ、また素子の長さを短くでき、集積化に有利である。また、有機材料の誘電率は3~4程度であり、ニオブ酸リチウムの1/10程度であるので、原理的に10倍程度の高速な動作が可能であり、高速光通信分野への応用に有利である。【0012】

【発明が解決しようとする課題】上述の如く、高特性の エチル基、プロピル基(n, i)、ブチル基(n, i, 素子を得るためには、非線形感受率の高い非線形光学材 t)、ペンチル基、ヘキシル基、ヒドロキシメチル基、料を開発する必要があるが、従来において、このような 50 ヒドロキシエチル基、ヒドロキシプロピル基、メトキシ

非線形光学材料が提供されていないのが現状である。本 発明は上記従来の実情に鑑みてなされたものであり、大 きな非線形度受率を有する材料を得るのに利用できる分 スポルケ東 4のような免費を担供し、これにより非規形

さな非線形を文字を有する材料を持るのに利用できるが 子担分極率 Bの大きな色素を提供し、これにより非線形 感受率を大幅に高め、従来の素子に比較して、高い性能 を示す素子を作製することができる非線形光学材料を提

供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】請求項1の非線形光学材) 料用色素は、下記構造式(1)で示されることを特徴と する。

[0014] [化2]

[0013]

$$R^{1}$$
 R^{2}
 R^{3}
 R^{3}
 R^{3}

【0015】請求項2の非線形光学材料は、請求項1に 記載の色素化合物を含有し、反転対称性を有しない構造 を付与したことを特徴とする。請求項3の非線形光学高 分子材料は、請求項2に記載の非線形光学材料であっ て、高分子中に請求項1に記載の色素化合物を含有さ せ、加熱しながら電場を印加して該色素化合物を配向さ せて得られることを特徴とする。

【0016】以下、本発明を詳細に説明する。前記構造 30 式(1)で表される本発明の非線形光学材料用色素において、XはSまたはNR⁴を表す。また、R¹およびR²は、それぞれ置換されていてもよいアルキル基を表し、R¹とR²とが結合して環を形成してもよく、R³は水素原子、アルキル基、アルコキシ基またはアシルアミノ基を表し、これらは置換されていてもよく、R⁴は水素原子またはアルキル基を表す。また、Qは、(NC)₂C=、NC(H₂NCO)C=、又はNC-N=を表す。ここで、QがNC(H₂NCO)C=である場合、それが接続しているベンゼン環と縮合しているベンゼン環 40 に対して、NC-基およびH₂NCO-基がシス位又はトランス位に有る場合を含む。

【0017】R1 およびR2 の具体的な例としては、炭素数が1~6のアルキル基、または水酸基、アルコキシ基、ハロゲン原子、アミノ基、カルボニル基、カルボキシル基、もしくはベンゼン環などの芳香環等の置換基により一つ以上の水素原子が置換された炭素数1~6のアルキル基が挙げられる。さらに具体的には、メチル基、エチル基、プロピル基(n, i, t)、ベンチル基、ヘキシル基、ヒドロキシメチル基、ヒドロキシエチル基、ヒドロキシアロピル基、メトキシ

エチル基、アセトキシエチル基、アクリルオキシエチル 基、メタクリルオキシエチル基、フェノキシエチル基、 トルエンスルフォニルオキシ基、アミノメチル基、アミ ノエチル基、ベンジル基、フルオロエチル基、クロロエ チル基、プロモエチル基、ヨードエチル基などが挙げら れるが、特にR1 およびR1 が共に炭素数1~6の無置 換のアルキル基であることが好ましい。さらに、R1 と R² とが結合して環を形成してもよく、例えばモルホリ ン環やピペリジン環、ピペラジン環、テトラヒドロキシ ピロール現の等も挙げることができる。R3 の具体的な 例としては、水素原子、メチル基、エチル基、プロピル 基(n, i)、ブチル基(n, i, t)、ペンチル基、 ヘキシル基等の炭素数1~6のアルキル基、メトキシ 基、エトキシ基、プロピルオキシ基(n, i)、ブチル* *オキシ基(n, i, t)等の炭素数1~6のアルコキシ 基、アセトアミノ基、プロピオニルアミノ基、ブチルア ミノ基等の炭素数1~6のアシルアミノ基が挙げられる が、特に水素原子が好ましい。これらはさらにR1 およ びR² と同様な置換基を有していてもよい。R⁴ の具体 的な例としては、水素原子および炭素数6以下のアルキ ル基が挙げられるが、特に水素原子が好ましい。また、 Qとしては、(NC)2C=が好ましい。

【0018】前記構造式(1)で表される本発明の非線 10 形光学材料用色素の具体的な例を下記に示すが、これら に限定するものではない。

> [0019] 【化3】

【0020】前記構造式(1)で表される非線形光学材 料用色素は、色素自体は公知であり、例えば、久保、桑 名、吉田によるChem. Express 3巻663 項(1988)に記載されている方法に従って製造する ことができる。本発明の非線形光学材料用色素を高分子 中に溶解すれば、該色素を含む高分子材料を得ることが できる。溶解する高分子材料としては、均一に溶解する ものであれば何でもよいが、光学材料として用いるため 40 2、R3 又はR1 に有するものが挙げられる。 には散乱のない透明なフィルムを与えるものが望まし い、例えば、メタクリル樹脂、アクリル樹脂、ポリカー ボネート樹脂、スチレン樹脂、尿素樹脂、フェノール樹 脂、ポリアミド樹脂、ポリエステル樹脂、ポリイミド樹 脂、エポキシ樹脂、シリコン樹脂、ポリ塩化ビニルや、 これらの共重合体やブレンド物などが挙げられる。

※【0021】また、前記構造式(1)で表される非線形 光学材料用色素に長鎖のアルキル基を導入すれば、ラン グミュアブロジェット膜を作製する事が可能な分子を得 ることができる。このような材料は、2次の非線型光学 材料として都合の良いものである。例えば、パルミチン 酸、ステアリン酸、アラキン酸、ベヘン酸に代表される 長鎖の脂肪酸のエステルを前記構造式(1)のR1、R

[0022]

【作用】基底状態と寄与の大きい励磁状態のみ考慮する 2準位モデルでの分子超分極率βは下記式(4)のよう に表される。

[0023]

【数3】

$$\beta(\omega_1 - \omega_2 + \omega_3) - \frac{|\mu_{01}|^2 \Delta \mu}{h^2} \frac{\omega_0^2 (3\omega_0^2 + \omega_1 \omega_2 - \omega_3^2)}{(\omega_0^2 - \omega_1^2)(\omega_0^2 - \omega_2^2)(\omega_0^2 - \omega_3^2)}$$
(4)

【0024】ここで、μ01は基底状態から励磁状態への 遷移モーメント、Δμは基底状態と励磁状態の双極子モ ーメントの差、ω。 は基底状態と励磁状態のエネルギー 差に対応する振動数、ωは関係する光の振動数を表す。 有機非線形光学材料は、分子内に電子供与性基と吸引性 基がπ電子で共役している分子内電荷移動性を有するも のが大部分であり、大きな遷移モーメントと双種子モー メントが、その非線形分極の由来として理解されてい る.

【0025】このような関係式において、更に、Bを大 10 きくするには、式(4)の光の振動数に依存する効果を 表す分散項を大きくすることが考えられる。これは、分 子の光吸収振動数 ω に光の振動数 ω を近づけて分散項 の分母を大きくすることに対応する。これは一般に共鳴 効果として知られている現象である。しかしながら、光 の振動数が分子吸収の振動数に近付くと、吸収スペクト ルの幅は有限であるため、光の吸収も起こるようになっ てくる。非線形光学効果は一般に小さな効果であるた め、これを利用するためには光をある程度の距離伝播さ せることが必要であり、分子の吸収はこれに対して制限 20 を与える。従って、むやみに共鳴振動数に近付けること はできない。光通信用の電気光学素子として用いるため には、使用される光の波長、例えば1.3µmや1.5 μmで吸収は十分小さくなければならない。

【0026】その他、非線形光学用色素に要求される特 性として、耐熱性が挙げられる。特に色素を高分子に含 有せしめた材料では、ボーリング処理の際に、高分子の ガラス転移温度付近まで加熱する必要がある。生じる非 線形光学特性の耐熱性を向上させるためには、ガラス転 移温度の高い高分子を用い、ボーリング温度を高くする 30 ことが一つの方法であり、この高いポーリング温度でも 色素が劣化しないことが必要である。

【0027】このようなことを考慮して、本発明者らの 研究により、以下に示すような分子が非線形光学材料用 の色素ユニットとして非常に優れていることが見出され た.

[0028]

【化4】

【0029】この構造を有する色素を高分子中に含有さ せれば、この化合物を含む高分子材料を得ることができ 50 【0033】本発明においては、配向のために印加した

る。また、長鎖のアルキル基を導入すれば、ラングミュ アブロジェット膜を作製することが可能な分子を得るこ とができる。このような材料は、2次の非線形光学材料 として有効なものである。この分子は分子内に**π電子で** 共役した電子供与性基と電子吸引性基を有しており、非 常に強い分子内電荷移動型化合物である。更に、吸収も 長波長領域にあり、光通信に用いられる近赤外領域の光 に対しても大きな非線形超分極率を示す。しかしなが ら、光通信に用いられる1.3μmや1.5μmでは吸 収は十分に小さく、これらに好適な素子を作製すること も十分可能である。また、耐熱性も良好で、200℃中 でも数時間では、分解はほとんど見られない。

8

【0030】前記構造式(1)で表される本発明の色素 化合物を2次の非線形光学材料として用いるには、分子 を極性構造に配向する必要がある。このためには、この 色素を含有する高分子に、電場を印加しながらガラス転 移温度Tg付近まで加熱することにより配向する、いわ ゆるボーリングと呼ばれる方法を利用できる。また、親 水性基と疎水性基の両方の基を持たせ、水面上で単分子 膜を作り、これを基板に移し取り配向膜を得るラングミ ュア・ブロジェット法も利用できる。更に、本色素化合 物に、直接又は適当な置換基を導入することによって、 反転対称性を有しない結晶を得ることができれば、それ は非常に高い非線形性を示す材料となる。本色素化合物 の大きな超分極率βを利用すれば、どのような方法で極 性構造を得るにしても、非常に優れた非線形光学材料を 得ることができる。

【0031】このようにして得られる、本発明の色素化 合物を含む非線形光学材料は、その電気光学効果を利用 して光変調素子や光スイッチ素子を作製するための材料 として用いることができる。また、適当な波長を選べ ば、第二高調波発生を含む和、差周波発生やパラメトリ ック増幅や発振等の、波長変換素子にも応用できる。と ころで、分子超分極率の測定には、電場誘起第二高調波 発生法 (EFISH法) がよく用いられるが、この方法 は第二高調波の光を強く吸収する色素に対しては難し い。そこで、本発明においては、以下のような方法を用 いた。

【0032】一般に、非線形光学効果の測定から求めら 40 れる非線形感受率 2(2) は、分子配向の分布で分子超分 極率Bを平均したものである。EFISH法では、これ を自由に回転できる双極子の電場中での配向の分布で表 している。これまでの分極高分子化合物の研究より、ガ ラス転移温度付近まで加熱された高分子中でも、配向し ている割合が小さい場合にはこの様な分布が、観測され るx(2) を良く説明されることが報告されている。しか しながら、特に高分子中に色素分子を溶解しただけの系 では、室温でも配向緩和が速やかに起きてしまい、配向 を見積もることができない。

* å.

直流電圧はそのままにしておき、それに交流電圧を重受して電気光学効果を測定した。これによって配向後の緩和は起きず、配向度はポリマーの運動性が凍結された時のものが維持されると期待できる。但し、配向は温度を下げていく際に徐々に凍結され、一定の配向温度を定義するのは難しい。しかし、本発明における検討で行なったように、100~120℃で配向し、室温まで温度を下げた場合でも、この温度は加熱温度と室温の間であり、この影響は300/393=0.76以内であるので、加熱温度を用いても色素の評価法としては十分であ*10

【0034】本発明で用いた電気光学効果の測定法としては、基本的には、C.C.TengらがAppl.Phys.Lett.56、p1734(1990)に発表したものを用いた。ただし、この論文にはp偏光とs偏光の位相差の計算に不偏があり、r33を計算する式(論文では式(10))は、を用いた。

10

[0035]

【数4】

$$r_{33} = \frac{3\lambda I_m}{4\pi m^2 V_m I_c} \frac{(n^2 - \sin^2\theta)^{\frac{1}{2}}}{\sin^2\theta}$$

【0036】具体的な実験の配置図を図1に示す。なお、図1中、1はレーザー、2は偏光子、3はバビネソレイユ補債板、4は検光子、5はフォトダイオード、6はロックインアンプ、7は電源、8はサンプル、9はヒーター、10は電極、11は温度制御器である。ここで、Tengらの測定法と異なるのは、サンプルがヒートブロックに固定されており、温度コントローラで温度※

※の制御ができるようになっていることと、印加する電圧 が交流に直流のオフセットがかけられるようになってい るところである。

(5)

【0037】求められる電気光学係数 r と x⁽²⁾ および 20 β と の関係は以下のものを用いた。

[0038]

【数5】

$$\chi^{(2)} = \frac{n^4}{2}r$$

$$\chi^{(2)} = Nf(\omega)^2 f(0) \langle \cos^3 \theta \rangle \beta$$

$$\langle \cos^3 \theta \rangle = \frac{\mu E}{5kT} f(0)$$
(6)

【0039】ここでnは屈折率、Nは色素の数密度、f 30★【0041】 (w) は振動数wの光又は電場の局所場補正係数、θは 分子の双極子μが電場となす角で<>は平均、Eは外部 から印加する静電場、kはポルツマン定数、Tは温度を 表す。f (w) はSingerらがJ. Chem. Ph ys. 75巻、p3572 (1981) で採用したもの を用いた。このように、rの測定からμβ積が求められ る。本測定法で得られる電気光学係数は、DC電場によ るx(3) の効果即ちKerr効果や、室温での電場によ るポリマー中での分子配向による屈折率の変化や、ポリ マーマトリクス自身の電場配向による電気光学効果等の 40 寄与はあるが、その効果は一般に大きくなく、少なくと も相対的なμβ積を比較するのには十分利用できる。な お、上記式(6)が利用できるためには、印加する電圧 や溶解する色素の濃度をできるだけ小さくするのが望ま しいと考えられる。

[0040]

【実施例】以下に実施例及び比較例を挙げて本発明をより具体的に説明するが、本発明はその要旨を超えない限り、以下の実施例に限定されるものではない。 実施例1 【0042】上記構造式で表される色素とポリメチルメタクリレート(PMMA、アルドリッチ社製、中分子量、固有粘度0.45)を溶解したシクロペンタノン溶液をスピンコーティングし、膜厚2~3μmのフィルムを300人のITO電極の上に作製した。フィルム中の色素濃度は0~3重量%の範囲で変化させたものを作製した。130℃で1時間乾燥して溶媒を除去した後、金を1000人の厚さに真空蒸着した。0.83μmの半★50 導体レーザーの光を用いて、前述の作用の項で述べた方

法でμβ積の測定を行なった。電圧はサンプル中の電場 がO. 5MV/cmとなるように印加し、加熱は、12 0℃で10分間行った。

【0043】ボーリングの結果現れるボッケルス効果は 図2に横軸-色素濃度、縦軸-ボッケルス係数として示 したとおり、低濃度で濃度に対して直線になり、前記

(6) 式が成立することが分かる。従ってこの部分の傾 きから前記(6)式を用いてμβ積を計算することがで きる。 得られた結果は、μβ積が17000×10⁻⁴⁸ esuであった。

比較例1

[0044]

【化6】

【0045】色素を上記式(8)で表されるディスパー スレッド1としたこと以外は、実施例1と同様にしてµ β積の測定を行なった。得られたμβ積は2100×1 20 5 フォトダイオード 0-48 esuであった。

[0046]

【発明の効果】以上詳述した通り、本発明の非線形光学 材料用色素は、著しく分子超分極率βが高く、このよう な非線形光学材料用色素を用いた本発明の非線形光学材 料によれば、非線形感受率が著しく良好な高性能の非線 形光学材料が提供される。特に、高分子中に本発明の色

12

素化合物を含有させ、加熱しながら電場を印加すること により該色素化合物を配向させて得られる非線形光学材 料は、製造が容易で機能性、多様性に優れた非線形光学 材料である。

【0047】このような本発明の非線形光学材料は、電 気光学光変調素子や波長変換素子等に用いて、光の制御 を行なうための非線形光学材料として、工業的に極めて 有用である。

【図面の簡単な説明】

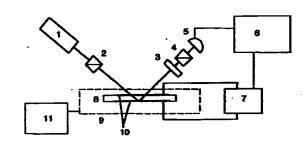
10 【図1】本発明において、電気光学効果の測定に使用さ れる装置の構成図。

【図2】実施例1の化合物を含むPMMA膜をポーリン グして発現するボッケルス効果の濃度に対する依存性を

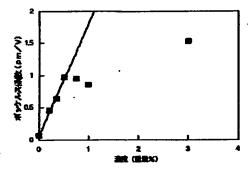
【符号の説明】

- 1 レーザー
- 2 偏光子
- 3 バビネソレイユ補償板
- 4 検光子
- - 6 ロックインアンプ
 - 7 電源
 - 8 サンプル
 - 9 ヒーター
 - 10 電極 (ITOおよび金)
 - 11 温度制御器

【図1】



【図2】



This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning Operations and is not part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:	
	D BLACK BORDERS
	IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
	☐ FADED TEXT OR DRAWING
	BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
	SKEWED/SLANTED IMAGES
5	COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
	GRAY SCALE DOCUMENTS
C	LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
	REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

OTHER:

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.